

30年ぶりの復活に歓喜の声

津軽中里駅の
転車台復活

津軽中里駅にある本州最北端の転車台の復活を祝おうと、津軽鉄道サポーターズクラブ(会長・高瀬英人)が主催する完成式典が5月21日(日)、津軽中里駅で行われ、全国各地の津鉄ファンなど町内外から約300人が集まりました。

転車台は列車を回転させ進行方向を変えるものですが、1988年ごろから車両の方向転換が不要となってからは使われていませんでした。そこで、サポーターズクラブが地域おこしの一環として、インターネット上で寄附を募るクラウドファンディングで費用を集め、修理しました。

式典には、クラウドファンディングに協力した「パトロン」約70人も出席し、高瀬会長が「みなさんのご支援、本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。転車台にラッセル車が乗せられ、濱館町長や津鉄の澤田長二郎社長らが取り付けられたばかりのレバーを押して回転させました。回転した転車台を見て、会場からは大きな拍手と歓声があがりました。

その後は、駅ナカにぎわい空間でメロス会による走れメロスの朗読や、中里三味線会、べえ子ちゃんらによる

芸能発表会が行われ、にぎわいをみせました。

式典に参加した人たちは「転車台を見られて良かったです。手押しやラッセル車にのったりと貴重な体験ができて感動しました」と笑顔で話していました。



30年ぶりに動いた転車台



小泊の風物詩始まる

メバル刺網漁が解禁

メバルの刺網漁が6月1日(木)より開始されました。初日は、9時を過ぎると続々と漁を終えた船が、夜の港に入ってきました。船の灯りが煌々と輝き、港を照らす中、漁師たちはメバルを1つ1つ丁寧に網から外していました。

魚に出た漁師は「例年、後半には水揚げ量が少なくなる。今年は最後まで豊漁が続いてくれれば」と期待していました。刺網漁は8月末まで行われ、その間は夜の港が明るく照らされ活気づきます。



明るく照らされる港



網外しの様子

6月17日(土)、7月22日(土)、29日(土)、8月5日(土)、19日(土)には、中泊活ハマクラブによる「津軽海峡メバル網外し体験ツアー2017」も開催されます。網外しだけでなく、施設見学や試食、お土産付きとなっています。詳しくは、広報6月号9ページのお知らせをご覧ください。

